（第3種郵便物認可）

原爆

ロンドン

広島の女学生の絵展示

【ロンドン＝小嶋麻友美】広島への原爆投下から七十年の節目に、広島の女学生たちが戦後に描いた風景画など三十四点の展示が五日、ロンドンで始まった。保管していた英中部マンチェスターの美術家マイク・スティーブンソンさんは「困難な時に子どもたちは前を向いていた。私たちもこの絵画から学び、未来を求めなければ」と訴える。

絵画は、原爆投下時に広島女学院（広島市）の院長だった故松本卓夫氏が戦後、欧米で平和活動を広げる中で、マンチェスターの女性教育家に渡されたとみられる。スティーブンソンさんは約三十年前、女性から一式を託されたが、広島の子どもが描いたこと以外ほとんど知らされなかった。

今回、ロンドンの大和日英基金の協力を得て広島女学院に連絡。ラミネート加工された絵画にはそれぞれ名前がローマ字で記されており、何人かは生存していることも分かった。絵画は十三日まで、基金の事務所で展示される。

原爆ドームをモチーフにした作品もあるが、大半は学校や神社、花火などを描いている。あえて「普通」の日常を追求した点に、スティーブンソンさんは未来に向かう子どもたちの力強さと悲劇の大きさを感じるという。「原爆投下は本当に必要だったのか」と疑問視するスティーブンソンさんは将来、絵画を日本に返還したい考え。「広島で世界平和に貢献し続けてほしい」

戦後の広島が描かれた作品を保管し、ロンドンの大和日英基金で展示するマイク・スティーブンソンさん＝小嶋麻友美撮影